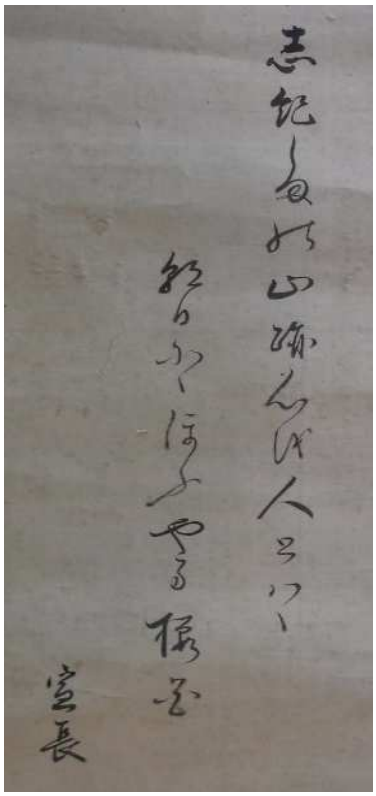
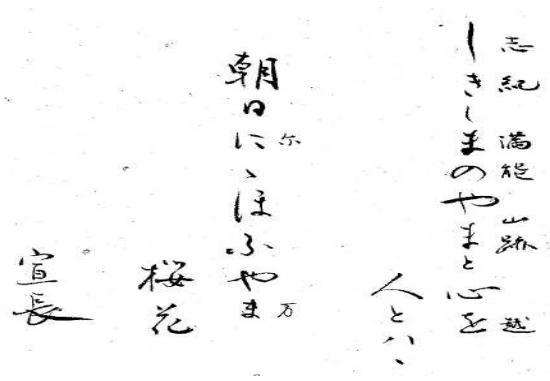
本居宣長像自賛(掛軸)

本居宣長像自賛(掛軸)



本居宣長像自賛



本居宣長像自賛の読み方

※愛知東邦大学　増田孝客員教授による

よみ　もとおりのりながぞうじさん(かけじく)
指定　市指定有形文化財
種別　書跡
所在地　御前崎市佐倉5162番地
所有者　池宮神社
指定日　令和４年８月26日

詳細情報

寸法(本紙)	縦91cm	横28cm
作　　者	本居宣長	
製作年代	江戸時代後期（18世紀末頃）	

解説

本物件は、現在、池宮神社資料館に展示されているが、平成12年まで宮司邸桜山館で貴重な資料として保管されていた。寛政２年(1790)に本居宣長本人が描き、賛を記した『本居宣長自画自賛六十一歳像』(国指定重要文化財)をもとに狩野派絵師が模写し、賛に『宣長』の署名があることから、本居宣長自身が自ら賛を書いたと伝えられてきた。

それを確かめるため、三重県松阪市の本居宣長記念館の学芸員や愛知東邦大学の増田孝客員教授(古文書学者・書跡史学者)に依頼して、本物件の賛についての調査や鑑定を実施した。

その結果から、今回の指定案件である池宮神社所蔵の本居宣長像(掛軸)の賛については、本居宣長本人が書いたものであると判断された。因みに本居宣長像の絵画については、尾張の町狩野である吉川義信により描かれたものと推測された。

賛の内容は、「志紀し満能山跡心越人とはゝ　朝日尓ゝほふや万桜花」である。その読み方は、「しきしまのやまと心を人とはば　朝日ににほふやま桜花」である。

本居宣長(1730～1801)は、国学四大人の一人である。伊勢国(現在の三重県)松坂出身で、医業の傍ら『源氏物語』などのことばや日本古典を講義し、また現存する日本最古の歴史書『古事記』を研究し、35年をかけて『古事記伝』44巻を執筆した人で賀茂真淵の思想、研究、万葉調の和歌を受け継ぎ、国学を大成したと言われている。

本居宣長と池宮神社の両方に関係する人物としては、宣長の師である遠江国(現在の静岡県)浜松出身賀茂真淵(1697～1769)の高弟である同国菊川出身の栗田土麿(1737～1811)に師事した池宮神社第42代宮司の「佐倉豊麿」(1757～1806)があげられる。『鈴屋門人録』によれば、佐倉豊麿は、寛政五年(1793)に門人となっており、遠江に於ける宣長の門人17名のうち、９人目の入門者にあたる。

この『本居宣長像自賛(掛軸)』が遠江に存在することは、江戸時代中期から後期にかけての遠江の国学がいかに隆昌していたかの傍証であり、池宮神社宮司の佐倉豊麿が栗田土満や賀茂真淵、本居宣長などの多くの国学者に師事して、この地域の国学隆昌や文化活動に関与していたことを伝える品と言えることから、御前崎市及びこの地方の文化史上たいへん貴重なものである。